



滋賀県版No. 343

2022・8・15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034
東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・
全労連会館

発行

滋賀県本部

〒520-0803

大津市竜が丘11-22-316

☎077-521-0884

柚口 延

久木興治郎さん没後85年 県本部が献花、追悼の辞

3・15事件の犠牲者・滋賀県出身の久木興治郎さんの没後85年に当たる7月24日、県本部を代表して西田清、古谷道代両副会長が久木さんの眠る京都の東本願寺大谷墓地を訪れ、献花するとともに「追悼の言葉」を贈り、久木さんがいのちを懸けた日本共産党と民青（共青の後身）の発展を報告しました。

久木興治郎さんは愛知川町出身、戦前、日本共産党員として青年共産同盟関西地方委員会を指導、軍隊に反戦行動を呼びかけるなど果敢に闘いました。三・一五弾圧で検挙され、懲役5年の刑を

受けましたが非転向を貫きました。

満期出獄後、大阪の教育通信社で働きましたが、1937年7月24日、大川で水泳中、溺死しました。享年29歳でした。

滋賀県本部では2004年に愛知川町で「久木興治郎を偲ぶつどい」を開いて以来、県内各地で「偲ぶつどい」を開いて顕彰しています。また2008年と2017年に久木興治郎の不屈のたたかいを紹介する冊子を発行しました。

没後70年の2007年に県本部として初めて墓参、今回、2回目の墓参となりました。



大谷祖廟にある久木家の墓



墓前で追悼の辞を述べる西田さん

8月5日現在

会員 321人

(目標350人)

個人署名

210筆

(目標5,000筆)

団体署名17筆

(目標150筆)

柳河瀬 精名誉会長 死去

葬儀に県本部代表が参加

柳河瀬精・同盟名誉会長が7月20日に死去（90歳）され、22日、大阪市で葬儀（家族葬）が行われ、県本部を代表して島田耕県本部会長、西田清、古谷道代両副会長が列席しました。

柳河瀬精さんは2005年、滋賀県本部の「第2回平和・人権講演会」に講師として参加、それ以来、2010年の「春を呼ぶ女性をつどい」で講演、2012年の「県本部結成25周年のつどい」に激励に駆け付けられるなど、指導をいただきました。お礼を申しあげるとともに、今は安らかに眠りくださるよう、祈るばかりです。



柳河瀬精さん（2012年・大津）

私の出会い 2016年国賠同盟 台湾周遊平和連帯の旅の思い出(上)

湖北支部幹事 宮川 一男

国賠同盟の先輩H氏に誘われ、私にとつては4度目の台湾でしたが、初めて日本との関わりを知る旅となりました。初の日本軍出兵の地で、国内問題の琉球支配とも関わり、日本帝国主義の拡張と人民の抵抗の歴史の地を訪れました。また、私の先輩・友人である長浜在住のAさんの祖父が、宮大工の棟梁として建立した台湾護国神社が国民党時代に撤去され、改めて建立された忠烈祠(台湾の護国神社)にも訪れることができました。

台南の牡丹社(村) 事件は1871年に、宮古島民が琉球政府への年貢を納めた帰りに漂流し、流れ着いた台湾南端の地で54人が殺害されました。事件の発端は、当初原住民のパイワン族に救助を求めた宮古島民が逃げ出してしまい、パイワン族は島民を敵とみなして斬首(当時の風習)してしまいました。一部の島

民12人は漢族移民により保護され、福建を経由して清国の手により帰国することができました。パイワン族のガイドによれば、意思の疎通ができなくて、お互いが誤解したことが原因とのことでした。日本政府の抗議に対して清国政府は、統治の及ばない地として責任の追及を拒否しました。西郷従道を頭として、廃藩置県による不満士族を中心とした3000人の軍部の独走による「征台」により出兵し(日本政府は追認する)、圧倒的な軍事力によりパイワン族は制圧されることになりました。清国は日本軍の行為を認め、莫大な(50万両)賠償金を支払い、結果として琉球民は日本人となり、琉球の帰属は国際的にも承認され、「琉球処分」が成立することになりました。事件による日本側の戦死者は12人で、一方マ

リヤによる病死は561人におよび、後の植民地の統治政策に大きな影響(医療、住環境政策)を与えたことになったと言われています。牡丹社事件の地には、宮古島民と、パイワン族との民族和解の碑が建っていました。

台中の山岳地帯の霧社(村) 事件は日本の植民地政策が、「軌道に乗った」とうたわれた1930年に発生し、国内でも大問題となりました。原住民セデック族の風習を理解せず、侮蔑したことにより発生したと言われています。事件の場所は台湾中部の山岳地帯で、日本人学校の運動会をセデック族が襲撃し、婦女子を含む140人を殺害してしまいました。日本植民地政府は軍・警察・味方蕃(セデック族の日本側勢力)を動員し700人を殺害、500人の投降により、一旦は終結しました。日本側の死者は軍人22人、警官6人、味方蕃21人で、これらの戦死者は靖国神社に合祀されています。昭和天皇は、事件の根本に原住民に対する侮蔑がある

と言っています。その後、味方蕃による敵蕃の首と引き換えに懸賞金を支払う第一霧社事件が発生し(植民地日本政府により禁止されていたはずの首狩りの奨励)、敵蕃は徹底的に弾圧されました。敵蕃の土地は味方蕃に奪われてしまい、敵蕃は平地の川中島に移住させられ、生活を一変させられることになりました。民族同士を戦わせる大國の常とう手段はこの地でも行われていました。人間はいつの時代にもアイデンティティを大切に、それを侵害する者には強く抵抗し、懐柔策や力で押さえつけても必ず抵抗します。セデック族のガイドさんの肩掛けカバンに「跟我說民族話 民族の言葉で私と話そう」と書かれていたことが印象的でした。彼は事件を映画化(題名セデックバレー)されたときに原住民語の指導をおこなっています。首謀者の遺体が、台湾大学に保存されていたことは、アイヌ民族の人体標本が北大に保存されていたことと同じく、科学者にも先住民蔑視の考え方があったことを表していると思いました。事件の地に、遺体標本をもとにした像が建立されていました。(3頁へ)

(2頁より)

台北では、婦女救援基金を訪れ、慰安婦問題の保存・世代継承の活動を交流しました。台湾政府の1992年調査によると、58人の慰安婦が生存していて、2016年には3人存命しておられ、会生活援助のボランティア活動を行っておられます。1992年河野談話、1995年の村山談話が出ますが、台湾は謝罪無きお金の支給を断り、台湾政府が500万円肩代わりして支払ったとのことでした。

「おばあちゃんの家」が完成し、慰安婦問題の保存・世代継承慰安婦問題の保存・世代継承の活動の拠点にするので、旅行の参加者から急遽募金を集めて、贈呈しました。(次号に続く)



治安維持法と滋賀県 ④ 県本部副会長 西田 清

3・15弾圧に関連して

今回は3・15弾圧に関する『滋賀日日通信』の報道を紹介したいが、その前に糸田律さんについて追記しておきたいことがある。

糸田律さんは1928年の女子学連創立に同志社女子専門学校の代表として参加している。そこで伊藤千代子とも会っている(はずだ)。女子学連は、3・15弾圧で「自然解消」の状況になったようだが、その後、糸田律さんは上京して野坂参三の主宰する産業労働調査所に勤務された。

そこで同郷・滋賀出身の清水平九郎と知り合われ、清水氏の出獄後に結婚された。結婚後、神戸に住まれたが、平九郎氏亡き晩年は郷里の甲賀郡甲賀町で過ごされた。

さて『滋賀日日通信』の3・15弾圧関連の報道はこういうもの

警視庁では4月10日午後労働党党首大山郁夫氏及び所属代議士水谷長三郎山本宣治、日本労働組合評議会中央委員野田律太、全日本無産青年同盟神間健寿氏等を召喚し解散命令を手交した。

併せて「県内の労働党約四百名」と次のように報じている。

労働党の大檢舉は全国に亘り一網打尽的に行われたが同党と本県との関係では、能登川方面の日本カタン系(後の日清紡)及び奥田製油両工場その他職工労働者で労働党に籍を有するもの約四百名あるがこれ等は党籍を有するというまでで今日まで何等政治的運動と交渉なく従って今回の騒動には無関係の位置にあった。

然し労働党の解散によって受け

る影響は相当あるべくそれは結局穏健な社会民衆党が之によって更に成長するであろう。一面には多少とも赤化しきれざる傾があるかの親の無産党は著しく勢力を抑えられそうな形勢である。

日本カタン系と奥田製油工場の労働者は当時、日本労働組合評議会京都合同組合能登川支部を結成していた。評議会は前述のように3・15弾圧で解散させられている。この弾圧によって能登川だけでなく、日本全体の労働組合運動が抑圧された。

ところで「県内の労働党約四百名」の実態は不明である。というより実態はなかったようである。弾圧対象を誇大に報じて無産運動に対する「恐怖(?)」を扇動するのは、権力側の手法である。

なお『滋賀日日通信』は1928年2月の第一回普通選挙における「社会民衆党、労働党、日本労働党(主催)の官憲糾弾演説会」の記事で、演説会への大津警察署の弾圧ぶりを詳しく報じている。

青年劇場『真理の勇氣―戸坂潤と唯物論研究会』を観て

湖北支部 山脇 正孝（米原市議、唯物論研究協会会員）

青年劇場の『真理の勇氣―戸坂潤と唯物論研究会』の演劇を観た。東京まで行ったのが今年5月のことでした。今、戸坂潤をどれだけの人が知っているでしょうか。戸坂潤とは、戦前、天皇制イデオロギー擁護の西田哲学が支配していた京都大学哲学科を卒業し、将来を嘱望されながらも、西田哲学の観念論を批判して科学的精神を唱え、当時の国粹主義、日本イデオロギー批判を旺盛に行った戦前の唯物論者です。

戸坂潤と彼の指導した唯物論研究会のスローガンは、「絶望は観念論」。戦前の激しい弾圧の中でも笑いとユーモアを忘れず、特高警察による、唯物論研究会への激しい攻撃にも、「この戸坂潤が沈黙することは、日本が許さない」

「この戸坂潤にできないことはない」と自身と会員を鼓舞しました。その言葉通り、合法の分野で、研究会や出版活動を最後まで旺盛にやり遂げ、奇跡ともいえる多くの実績を残しました。これが、非合法の日本共産党の活動とともに、世界に例がない偉業であつたことを、歴史の闇に葬り去つてはなりません。

戸坂潤は精力的な活動を行った末、ついに治安維持法で逮捕され、日本帝国主義が敗北する直前の8月9日に長野刑務所で獄死。戸坂と唯物論研究会を監視し彼を逮捕した特高警察でさえ、彼の堂々とした態度に逮捕の前には涙したと言われています（この場面は、演劇にも出てきます）。

40年以上前に、マルクス主義の洗

礼を受けた者ならほとんどが、戸坂潤の著書と格闘したはずで、戦前最高の戦前の唯物論者であり、おそらく世界的にも類をみない「知の巨人」でした。

私が法学部の大学院に入学して初めてもらった奨学金で買ったのは、戸坂潤全集でした。この全集は今でもすぐ手の届くところにおいてあり、時々読むことがあります。文科省の道徳教育を批判するために、戸坂潤の道徳論はたいへん役に立ちました。

歴史にもしくは、ないのですが、戦後、戸坂潤がいたならば、日本の思想・文化状況は大きく変わっていたでしょう。少なくとも歴史修正主義や反知性主義、旧統一協会などのカルトなどが顔をもちたげることにはなかつたかもしれません。

私の学生時代のマルクス主義哲学やドイツ語の事実上の先生であつた、哲学者の故古在由重先生は、戸坂潤とともに戦前唯物論研究会を結成した人でした。私は古在先生から、仲がよかった戸坂潤

の話聞くのが好きでした。また古在先生は、戦後東大教授に来てほしいと頼まれたが、学者なんかやっていない時代ではないと断つたと言っておられました。今から思えば、失敗かなと笑つておられました。そうです。戸坂潤亡き後、古在先生が東大におられたなら、日本のアカデミックスの思想・哲学界は唯物論が主流になり、大きく変わつていただろうでしょう。私も東大の哲学科を目指したにちがひありません。

獄死同様に亡くなった伊藤千代子が主人公の映画『わが青春つぎとも』も、同時代の映画です。これも、「戦前」のような思想状況に戻りつつある今、必見です。

折しも戸坂の演劇を観たのは5月15日。沖縄「返還」50周年。沖縄に配備された米国の核弾道はすでに撤去されているとはいえ、米軍基地が沖縄に集中する現状は、50年前と何も変わっていません。戦前の絶対主義的天皇制が戦後米帝国主義に座を譲つただけと言つていいでしょう。日本の政治的思想的文化的後進性は何も変わっていないのです。

戸坂潤が精力的に唱えた科学的精神、批判的精神を、また戸坂潤や伊藤千代子の犠牲の上につくられた憲法9条を攻撃する愚かな宣伝に対するイデオロギー批判を、安倍晋三の国葬を許さない世論の喚起、旧統一協会などのカルトの排撃を、戸坂潤や唯物論研究会から今こそ、学ばなければなりません。

最後に、『真理の勇氣―戸坂潤と唯物論研究会』は、青年劇場第127回公演として行われ、いまでは観ることはできません。しかしながら、私はあまり多くない人数という限定で青年劇場が撮影した実演画像を観ることを許されたので、10月以降、湖北地域でスクリーンにて上映したいと考えています。入場料はいただきませんが、観てよかつたと思われる方にはカンパをもらい、全額、新型コロナで経営が困難な状態にある青年劇場に送金することにします。



開催の詳細は、国賠同盟会員の方にはピラでお知らせしますし、ご希望があれば、どこにでも上映の出勤をいたします。どうぞ、この機会にご覧ください。

出会いは大切

大津支部幹事 菅沼満佐子

私は3K職場で時間と労働を売るといふパートをしています。マンシヨン清掃、居住者さんから苦情、気持ちよくしてくれてありがとう」と声をかけていただく頑張りと思ひます。家では掃除を頑張つても感謝されないですから働きがいを感じています。

そんな仕事のパート仲間、帰り道に話す程度ですがお勧め本とか情報交換をしていました、映画も長いこと見てないわと言われるので、伊藤千代子の映画を見に行こうとお誘いして平野市民センターへ二人で鑑賞しました。伊藤千代子は共産党員だったけど治安維持法のもとで美術教師の方が生活の絵を描いただけで投獄されたことや今も生存されていて理不尽な

でも、憲法パンフを渡し、ついでに新婦人の作品展の案内もして、パート婦人の話題がさらに深いものになりました。薄い付き合いが少しずつ深められて厚いつながりになりました。またまた大津駅前での小池さんの街頭演説会のピラも持ち合わせていたので渡すと聞きに行つてもらえてその後は私のほうが教えてもらうことも多くなりました。これからは彼女と一緒に怒つたり、おかしいやん！と思うこと話してつながりを大切にしていきたいと思つています。

滋賀と朝鮮 77

彦根市城東小学校①

河かおる

人間の怒りには「総量規制」が自動的にかかる面があって、怒るべき事柄が多くても、全部に怒ることができなくなってくる、みたいな話を韓国のラジオMCが言っていたのを最近よく思い出します。身の回り、国レベル、世界レベル、本当に次々に看過できないようなことが起きて、何にどれだけ怒るべきなのか感覚がおかしくなりそうです。

さて前々回までの連載で、大津市の教育闘争について書いて来ましたが、次は同じ時期の彦根市の話をしたいと思います。朝鮮人学校の設立も強制閉鎖も公立学校への転校を強制も公立学校内への民族学級設置、という基本的な流れと背景は、大津市や、以前に書いた能登川町の場合と同じです。

1945年11月現在の人口を調

査した「昭和20年人口調査」によれば、彦根市には男性413人、女性250人の合計663人の朝鮮人が居住していました。旧安養寺町にある「彦根初等学校」という朝鮮人学校で、教師1人のもと生徒45人が学んでいたことが、1948年2月現在の情報をまとめた朝鮮人聯盟中央本部の資料からわかります。1949年11月の強制閉鎖の記録では、教師2人のもと60人の生徒が学んでいた「朝鮮人彦根学校」が閉鎖されたことがわかります。

閉鎖から約一ヶ月後の1949年12月16日付の『朝日新聞』に図1のような子どもたちの写真入りの記事が掲載されます。本文の内容は次のとおりです。

彦根市の朝鮮人学童教育問題は円

後の状況について」（滋賀県国家地方警察が1950年5月11日にGHQの近畿地方民事部に報告した文書）に、城東小学校が出てきます。

- 1、吾々の先生を救ってください
- 2、戦争は絶対嫌だ
- 3、李承晩政府の暴虐追求
- 4、強制送還絶対反対

の4項目掲げて署名運動を続けてあるが、一方、父兄代表と称する元朝鮮連幹部は連日の如く市教育委員会事務局並に城東小学校に押し掛け執拗に朝鮮人学童の教育に対する要望を申し込み、5月4日午前中には（共）姜洪植 李鐘吉 具方出 等は父兄20数人を引連れ、城東小学校に押し掛け、大谷校長に対し面会を強要して

- 1、朝鮮人教師の微縫的給料値上げは承服出来ない
 - 2、朝鮮人学童教育のため二学級を口設せよ
 - 3、語学を正課に繰り入れよ
- 等の3項目に亘る要求事項の採用を迫ったが、大谷校長は「要求項目は一つとして校長自身で採決するの権限のものはない、来る10日県庁に於て県下の校長会があるので県当局とよく相談して来るから休校生徒を早く登校せしめるようせられたい」と問答一蹴したのでその後何等な事なく2時間の後引き上げた。

前々回、一度見たのに探し出せない資料があると書いていたものが見つかりました。同じく滋賀県国家地方警察が、上記資料より少し後の8月8日にGHQに報告した「朝鮮人教師の夏期講習の実態について」という資料です（GHQ/SCAP文書）。内容は、教師も日本生まれ日本育ちで朝鮮語の教育をきちんと

満に解決してさる七日から五十二名が城東小学校に編入、課外の朝鮮語も週五時間ずつ行われているがみんな仲よく勉強している、特に五年三組では今春の校内野球大会に投手の梁原久満君と遊撃の鄭宗安君が活躍して優勝したが七月から両君が朝鮮人学校へ去ったため秋の大会には優勝を逃した、両君が帰ってきたら



朝日新聞1949年12月16日付

「来年は優勝や」
城東校に日鮮チーム
彦根市の朝鮮人学童教育問題が解決したと見られていたが、七月から両君が朝鮮人学校へ去ったため秋の大会には優勝を逃した、両君が帰ってきたら

なアと心待ちしていた矢先、朝鮮人学校閉鎖で二人がそろって復帰、元気な顔を見せたのでクラスチームの選手をはじめ組中が「これで来年は優勝や」と早速以前通りの日鮮チームをつくって大喜び／朝鮮語の先生金さんも「仲よくやっているので安心です」と朗らかである。写真は仲よし日鮮チーム（前列左が梁原君、右が鄭君）

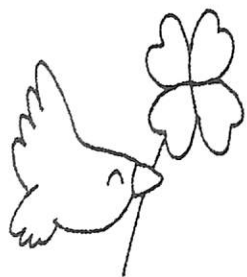
「朝鮮人学童教育問題」とは強制閉鎖のことなので、どう考えても朝鮮人にとっては「円満に解決」であるはずがありませんが、52人もが一気に城東小学校に編入してきたこと、早い段階から朝鮮語の課外の授業が週5時間認められていて朝鮮人の教員がいたこと、子どもたちが元気に野球を楽しんでいたことなどがわかります。

彦根でも、大津と同時期に教育闘争が行われました。前々回に引用した「（秘）旧朝鮮連系幹部の指導する朝鮮人学童一斉休校とその

事務局だより

柚口延

受けたことがないから対策が必要なこと、同盟休校などで児童の学力低下も心配なので夏期講習を計画したこと、東京から講師が来ること、合宿場所は近江神宮の寮で、何名が参加し、どのような講習内容で……といったことが書かれています。朝鮮人の行動が警察によつて監視されGHQに報告され、海の向こうで記録に残されていることによつて私たちが知ることができるといふ事実が何とも気持ちが悪いです。ともあれ、教師は県下全員24人参加したとのことなので、城東小学校の教員も参加したことでしょう。次回も城東小学校について書きます。



最近テレビや新聞を賑わしている統一協会について。私が学生の頃（1970年代から80年代の頃）、彼らは、都内の大学で活動していました。「聖書に興味はありませんか」と言つて、接触するのが当時の勧誘のパターンでした。当時、青山学院、上智大といったキリスト教系の大学で被害が多かったと言われていました。▼その後も霊の祟りなどで不安を煽る霊感商法でトラブルが続出。今も被害が続いていることに驚きました。そして自民党のタカ派が積極的に統一協会に関わり、選挙支援を受け、そのお返しに統一教会の広告塔として活動していることも驚きでした。▼問題は、カルト集団である統一協会の考えが、自民党の政策にまで影響を及ぼしていることです。同性婚、選択的夫婦別姓などジェンダー平等を阻んでいる構図が透けて見えてきます。

不屈版
滋賀県
読者の広場

ひろば

「大野の振り飛車」

大津支部 芝川 源一郎

藤井聡太ブームで話題の将棋は
わが趣味の一つである。一番熱中
したのは中学から高校1、2年生
ごろ。高校の同級生に好敵手がい
て、ちいさなブラ盤で授業中も指
していて、先生に見つかり大目玉
をくらったこともあった。ただ、
どこか将棋クラブでもいけばよ
かったのだから、あまりにも同
じ相手と指していると飽きてき
て、そのうち指さなくなってい
まった。

コンピュータで将棋ができる
ようになったが、当初はコン
ピューターは本当に弱く、ボコボ

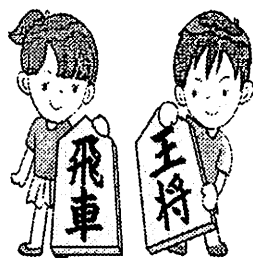
コにして楽しんでいたが、そのうち
うっかりするとこつちが負けるよう
になり、どんどん強くなって、プロ
のようなじつくりとした戦いにな
り、ある面で面白くなくなってし
まった。最近はダブルレットに入っ
ているアプリにもなかなか勝てず情け
ない。

私は振り飛車党である。振り飛車
という戦法が好きである。好きな戦
法は得意戦法（勝率が良い戦法）か
どうかは微妙なところで、将棋を指
す人ならわかっていたらと思う
が、むしろ振り飛車を指したいがた
めに将棋を指しているようなところ
がある。先日NHK杯戦をみていた
ら振り飛車党の解説者が「飛車を振
ればやりたい作戦ができるので、振
り飛車党は自分の指したい将棋をさ
せている率が高い」と述べていた。
なるほど。

升田幸三、大山康晴の兄弟子に大
野源一九段という人がいた。相掛か
り全盛の戦前から振り飛車を指して
いた「振り飛車名人」として有名な

棋士だ。「大野の振り飛車」とい
う本はこの人の実戦集（自戦記）
で、本当にすり切れるまで何百回
も読み、盤に並べた。豪快なサバ
キとするどい寄せは魅力たっぷり
で、こんな将棋を指したい、とあ
こがれたものだった。

この本は将棋好きの友人に譲っ
たので今は手元にない。ヨロッ
パへ行くことが決まったというの
で餞別がわりに渡したのだが、ぼ
ろぼろの本を渡されて友人もとま
どつただろう。また、再販される
かと思っていたが、某〇マゾンで
もでてこないのでもはや古本もな
いようだ。また友人もヨーロッパ
から台湾へ行ったがその後いつの
間にか連絡は途絶えた。



「わが青春つぎととも」

伊藤千代子の生涯

草津・りつとう上映会のお知らせ

◆9月3日（土）14時〜

草津市渋川1丁目6の15

光明寺

「映画と交流の夕べ」

・西田清さん（同盟県本部）

のお話

・映画上映

・皆さんとの交流カフェ

◆9月4日（日）

草津アマカホール

①10時30分〜12時40分

②14時〜16時10分

両日とも当日券は1000円
です。

現在、秋以降の映画「わが青
春つぎととも」第2次上映運動
を計画中です。まだ映画を見て
いない方、もう一度見たい方、
ご期待ください。